当院における抗血栓薬内服等患者に対する大腸ポリープの内視鏡治療の外来移行の影響の評価

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

大腸ポリープの内視鏡治療において治療後出血は最も一般的な偶発症です。当院では大腸ポリープの内視鏡治療に際し、消化器内視鏡学会ガイドラインを基に、出血リスクが高いと判断した方は入院で治療を行ってきました。しかしこれまでのデータから外来で治療できる方も多いことが想定され外来治療への移行を図ってきました。今回はこの治療方針の見直し前後での診療記録を収集し、方針の変更による外来治療の状況や治療後出血の変化の程度を比較します。診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2021年4月～2023年3月に当院で大腸ポリープの内視鏡治療を受けられた方

使用する情報

年齢、性別、基礎疾患の有無、内視鏡治療の方法や外来、入院の有無、術後出血の有無
情報の使用開始予定日：2023年9月26日

研究予定期間

2023年9月26日～2025年12月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 消化器内科 糸島 尚

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾 浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 消化器内科 糸島 尚

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)